

令和4年度専門領域推進部生活支援理学療法領域勉強会 活動報告書

日 時：令和4年9月15日（木）19：00～20：00

形 式：オンライン開催（Zoom）

内 容：1) アドヒアランス概念に基づいた理学療法

情報提供者 関場大樹（篠田総合病院）

2) 症例紹介

情報提供者 鈴木梢子（篠田総合病院）

参加者(理事・部員含む)：48名

内容の詳細：

- 1) 前回の勉強会にて、“回復期から生活期における対象者の関わり方”をテーマとし、対象者の退院後の“活動と参加”には“主体性”を育むこと、そのために入院中からの関わりが重要であることを提示した。今回は、前回の内容を実際に概念に落とし込み、“アドヒアランス概念”に基づいた考え方、関わり方を提示した。アドヒアランスの向上が“主体性”を育む一助になることを紹介した。
- 2) “アドヒアランス概念”に基づいた理学療法はどのように実践すると良いのか、回復期病棟における患者への関わりを紹介させて頂いた。症例への理学療法を提供する中で、アドヒアランスの向上を図ることが出来るタイミングが、いくつかあることを提示した。今後の臨床場面で意識して関わることで、生活期での“活動と参加”を促し、医療領域から介護領域へのシームレスな移行の一助になるのではないかと考える。

今回、“アドヒアランス概念”に基づいた理学療法を、症例を通して提示できたことで、より臨床へと落としこみやすかったのではないかと思われた。今後もより実践的な提供ができるよう、症例の提示はできる限り継続していきたい。また、生活支援は多岐に及んでおり、その方法は時期毎に異なる場合もあるが、医療領域と介護領域ともに活用できる情報を提示することで、両領域の架け橋となっていきたいと考える。

文責：鈴木梢子

関場大樹